

北海道立北方民族博物館 平成一九年度企画展

森の入ウデへ

ウスリー・タイガに暮らす



二〇〇八年二月二日(土)～三月二三日(日)

(休館日 月曜日(二月一日は開館)、二月二日(火))

開館時間 九時三〇分～一六時三〇分
会場 北海道立北方民族博物館

観覧無料

協力
特別協力

(財)北海道文学館、北海道立文学館、国際環境NGO For Japan、網走市立図書館、
クラスヌイ・ヤール村(ロシア連邦)、
(財)北海道北方博物館交流協会、
福持英助氏、津曲敏郎氏、風間伸次郎氏、佐々木勝教氏



水彩画と民族資料で描く
「デルス・ウザーラ」の世界



森の入ウデヘーウスリー・タイガに暮らす

ロシア・沿海地方には、今モトラやヒョウが生息する広大な原生林「ウスリー・タイガ」が残されています。先住民ウデヘは、この森でシカやイノシシを、また川でサケを捕り、自然とともに暮らしてきました。



G.D. パヴリーシン画「道なき道をすすむ」／北海道立文学館蔵
(川を移動する探検隊の様子)

ロシア・沿海地方の自然とウデヘの伝統文化

今から100年ほど前、沿海地方を探検したロシア軍将校アルセーニエフは、その体験を基に『デルス・ウザーラ』という本を出版しました(日本では、黒澤明監督の映画としても知られています)。『森の人デルス・ウザーラ』(群像社発行)は、ハバロフスク在住の画家G.D.パヴリーシンの色彩豊かな水彩画でこの物語をよみがえらせた絵本です。探検の場面とともにこの地の自然や動物たち、先住民ウデヘの狩りの様子などが描かれています。

絵本の原画と、北方民族博物館所蔵の狩猟服、毛皮の加工具などの民族資料によって、ウデヘの伝統的な狩猟文化を紹介します。



G. D. パヴリーシン

1938年、現在のロシア連邦ハバロフスク生まれ。ウラジオストクの美術学校を卒業後、ソ連科学アカデミーに勤務し、民俗関係のスケッチを描く。挿絵画家として多数の本を手がけ、日本では神沢利子作『鹿よ、おれの兄弟よ』(福音館書店発行)などの作品で知られる。

現代のウデヘの暮らし

ウデヘの人びとは、大きな社会的変化を経験しながら、この地に住み続けてきました。村での日常生活、伝統的な文化の保存活動、伝統文化に根ざした新たな工芸品や美術作品の創出、国際的な環境保護運動と関連したエコ・ツアー活動など、現在の彼らの様子を写真と実物資料で紹介します。



V.スリヤンジガ作・木彫「舟を漕ぐウデヘ」／北海道立北方民族博物館蔵



民芸品制作グループ「ボグティギ(復興)」の皆さん(2007年撮影)

- ・講演会「ロシア・沿海地方の森と人びと」
日時：2008年2月2日(土) 13:30-15:30
講師：津曲敏郎氏(北海道大学教授)
A.カンチュガ氏(ウデヘ文化伝承者)
野口栄一郎氏(国際環境NGO FoE Japan ディレクター)

- ・講演会「沿海地方の森と動物たち」
日時：2008年3月16日(日) 13:30-15:30
講師：あべ弘士氏(絵本作家)

- ・展示解説会
日時：2008年2月3日(日) 13:30-14:00, 15:30-16:00
解説：中田篤(当館学芸員)

- ・大人も楽しむ読み聞かせ～
絵本『森の人 デルス・ウザーラ』を読む
日時：2008年2月17日(日)、3月15日(土)
11:00-12:00, 14:00-15:00

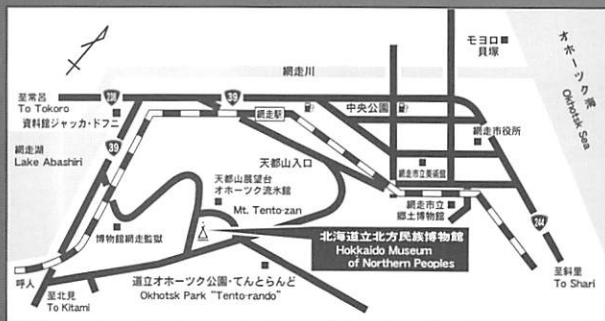
読み聞かせ：

「朗読ボランティア 声の図書館 そよかぜ」

お申し込み・お問い合わせ先

北海道立北方民族博物館
Hokkaido Museum of Northern Peoples

TEL 0152-45-3888 FAX 0152-45-3889



- 【表】(上) D.G.パヴリーシン画「トラにおそわれる」／北海道立文学館蔵
(中) ビキン川から森を見る猟師ヤコフ(2006年 福持英助撮影)
(下) D.G.パヴリーシン画「冬のイノシシ狩り」／北海道立文学館蔵
(右・表題下) N.スアンカ作・木彫「偶像」